

# 議会運営委員会 所管事務調査報告書

令和8年4月28日

犬山市議会議長

大 沢 秀 教 様

議会運営委員長

畑 竜 介

本委員会は、地方自治法第109条第3項及び犬山市議会会議規則第97条第2項の規定に基づき、下記の事項について調査したので、犬山市議会会議規則第102条の規定に基づき報告します。

## 記

### 1. 調査事項

委員会の分散開催について

### 2. 調査目的

本市議会には、3つの常任委員会があるが、委員会付託された議案を委員会で審査する場合は、同時に複数の委員会を開催しているため、他の委員会を傍聴することができない。

このことから、他自治体の委員会の分散開催の状況や、委員会審査の状況を迅速に議員間で情報共有を行うための方法について、調査研究を行う。

### 3. 調査方法

#### (1) 現状把握（他自治体の状況把握、同時開催のメリット・デメリット等）

日 時 令和7年8月7日 午前10時57分から午前11時42分まで

場 所 第3委員会室

出席委員 7名（全員）

主な内容 （現状把握）

- ・愛知県内の38市議会の委員会の同時開催・分散開催の状況を調査した結果、同時開催している市は犬山市と名古屋市の2市のみで、36市は分散開催であった。

- ・調査目的に「同時に複数の委員会を開催しているため、他の委員会を傍聴することができない」とあるが、犬山市の現状は、次のとおり。

- ①単独で開催している議会運営委員会を傍聴する委員外議員がない。

- ②所属する常任委員会の審査が終わっても、他の委員会を傍聴する委員外議員があまりいない。臨時議会や追加議案など1委員会しか開催されていない場合でも、傍聴する委員外議員があまりいない。
  - ③ライブで傍聴できなくても、ユーチューブで他の委員会の審査状況を確認できる。
- ・犬山市の現状の運用で委員会を分散開催した場合の課題は、次のとおり。
- ①定例議会における委員会日程は3日間であり、請願・陳情の審査や所管事務調査などを含めると、各委員会3日間開催することもある。分散開催とした場合、3委員会×3日＝9日の委員会日程を設ける事は困難。
  - ②委員会日程を短縮するには、審査時間短縮のため、9月議会決算・2月議会当初予算の課長による歳入・歳出の議案説明は省略する、9月議会決算の会計調書の確認は省略することなどが必要。
  - ③議会日より編集の都合上、月末までに定例議会を終えないと翌々月1日の発行に支障が出るため、委員会日程を大幅に増やした場合、議会だよりの発行日を1か月遅らせるか、定例議会再開日を1週間程度早める必要がある。
  - ④委員会の独立性を担保するため、委員外議員の発言については、事前通告などのルールを決める必要がある。

#### (委員の意見)

- ・分散開催の場合は1委員会1日の日程が多いが、形式的な審査になってしまわないか。犬山市は1委員会3日あるので深く審査できる。
- ・犬山市は本会議での議案質疑の日程が2日あり、所属委員会以外の内容は本会議で質疑できるため、委員会での委員外議員の発言は必要あるのか。
- ・市民のための委員会ということに着目すれば、全ての委員会を傍聴できるように分散開催を試行してみてもよいのではないか。
- ・分散開催のメリットはないように思う。
- ・委員会の審査状況を迅速に議員間で情報共有するため、UDトークの文字起こしデータを全議員に共有してはどうか。

(2) 委員間討議

日 時 令和7年9月1日 午前10時45分から午前11時10分まで  
場 所 第3委員会室  
出席委員 7名（全員）  
主な内容 8月7日の現状把握を踏まえて、各会派の意見を持ち寄って委員間討議を行った。

（委員の意見）

- ・ 3委員会×3日＝9日の委員会日程は不可能なので、1日目だけ分散開催（3委員会×1日＝3日）とし、残りの2日は同時開催として、5日間の委員会日程としてはどうか。
- ・ 慎重審査するためにも、1委員会3日の委員会日程は必要。現状のまま同時開催でよい。
- ・ UDトークの文字起こしデータをAIで要約すれば、議員はもちろん市民への情報共有のスピードも高まるのではないか。

（協議結果）

- ・ 犬山市では分散開催のメリットはないため、分散開催は行わない。
- ・ 試行的に9月定例議会で各常任委員会の審査内容をUDトークで文字起こしし、AIで要約して検証する。

日 時 令和7年9月24日 午後2時01分から午後2時55分まで  
場 所 第3委員会室  
出席委員 6名（1名欠席）  
主な内容 （試行結果）

- ・ 委員会室のマイクシステムとiPadを繋ぐケーブルを追加するだけで済み、事務局がUDトークの文字起こしデータをグループウェアシステムにアップする作業も大きな事務負担ではない。
- ・ 事務局のGoogleアカウントで、ChatGPTへの登録を試みたが、法人と判断され無料版を使用できなかった。職員個人のアカウントでChatGPTへの登録を行い、無料版を使用した。よりよい要約結果を求めて指示を行うとすぐにトークン制限がかかり、1委員会分しか要約ができなかった。有償版は1ユーザー月額30ドルの契約が必要になる。よりよい要約結果を求めて指示を繰り返すと、事務負担も大きくなる。

- ・職員の業務用パソコンで使用できるLOGO AIアシスタントでも要約をしたが、コピーアンドペーストできる字数がかなり少なく、UDトークの文字起こしデータを使用するには不向きであった。
- ・AIの要約結果をよしと判断するのは、事務局か委員長か議論が必要。ホームページ公開までとなると、事務局判断ではできないので、短時間で委員長決裁を得るなど事務負担も大きくなる。

#### (委員の意見)

- ・AIの要約結果は大いに疑問。AIへの指示（プロンプト）の研究が必要。要約結果の判断は委員長でよいが、公開となるともっと研究が必要。
- ・UDトークの文字起こしデータを議員間で情報共有できたことは大きな進歩。会派内での意見交換や議会での議論においても参加の仕方の質が変わった。
- ・AIでの要約、要約結果の公表は、事務負担が大きいようだが、引き続き研究は行っていきたい。

#### (協議結果)

- ・UDトークの文字起こしデータを議員間で情報共有することは有効であるため、今後も引き続き行っていく。
- ・AI技術は日進月歩のため、引き続き研究していく。

#### 4. 調査結果

委員間討議を踏まえ、以下の3点について意見集約した。

- (1) 委員会の同時開催を行っている市議会は、愛知県内では極少数であるが、犬山市では委員会日程を十分に取り、これまでどおり慎重審査するため、分散開催は行わない。
- (2) 委員会の審査内容をUDトークで文字起こしし、議員間で情報共有することは有効であるため、今後も行っていく。
- (3) 委員会の審査内容をAIで要約し、活用するためには、有償版の契約が必要であるが、AI技術も日進月歩のため、引き続き研究していく。